



ヒトにも自然にもやさしい街中の移動を考えよう

講座コーディネーター

新潟大学工学部 教授

林 豊彦

趣 旨

街中での移動は生活・就学・就労に欠かせません。ところがエネルギー多消費による環境負荷や社会の超高齢化によって、石油や電力を多消費する移動を再考しなければいけない時期にきています。高齢者や障がい者の移動の権利保障には、移動手段・道路などのユニバーサルデザイン化が、エネルギー消費の抑制には、自転車・電気自動車を含めた移動手段の多様化が求められています。このような大きな課題は、専門家だけでなく一般市民も含めて議論を深める必要があります。「ヒトにも自然にもやさしい街中の移動」について考えましょう。



学習方法

前期：講義 後期：ゼミナール・実習

前期受講料

10,000円

金曜日 午後7時～午後9時

プログラム・指導講師

回	月日	テーマ	内容	講師
1	6/12	みんなにやさしい街中の移動を考えよう	移動問題を総合的に捉えるために、移動手段、道路、標識、建物などの要素をユニバーサルデザインの観点から考えます。	新潟大学工学部 教授 林 豊彦
2	6/19	みんなにやさしいパーソナルモビリティとは？	移動手段の要素技術を説明しながら、個人の移動手段(パーソナルモビリティ)とその将来について学びます。	新潟大学工学部 准教授 今村 孝
3	6/26	移動にやさしい街のデザインとは？	移動しやすさの観点から、道路などの街の構成要素と街の構造の最適化、および景観としての美しさについて学びます。	新潟大学工学部・教育学部 准教授 楢本 学
4	7/3	みんなにやさしい地方の公共交通とは？	環境を守り、エネルギー消費を抑えつつ、行きたいところに行ける交通の実現には、公共交通が欠かせません。地方の公共交通の現状と未来について考えます。	新潟大学経済学部 准教授 藤堂 史明
5	7/10	自転車通勤からツーリズムまで、いまや行政は自転車に夢中？	2017年に自転車活用推進法が施行され、国の施策として自転車活用が始まりました。その有効な生かし方について、実例を用いて説明します。	自転車評論家 自転車ツーキニスト 疋田 智
6	7/17	歩行と自転車の健康学	運動不足やストレスは生活習慣病の原因の一つです。移動手段に歩行や自転車を加えることによる健康への影響について学びます。	新潟医療福祉大学 健康科学部 教授 大森 豪
7	公開 7/31	車社会:エネルギーと生物の時間から考え直す	車とはエネルギーを使って時間を速めるものだと考えられます。生物の時間から、極度に速くなった現代社会の問題点を考えます。	東京工業大学 名誉教授 本川 達雄
8	8/7	電動化と自動化は自動車をどのように変えるのか？	自動車の動力は電動化され、さらに知能化される時代がきます。電動化と自動化は、自動車をどのように変え、移動の質の向上にどのようにつながるかを学びます。	東京大学工学部 准教授 小竹 元基
9	8/28	自転車も使える欧米の街づくり	欧米の諸都市では、市内の移動手段として自転車を含む多様な緩速交通が活用され始めています。いくつかの例を参考にして、新しい街づくりについて学びます。	NPO法人自転車活用推進研究会 理事長 小林 成基
10	9/4	ワークショップ:近未来の都市モビリティを考える	講義のまとめとして、講師と受講者でパネルディスカッションを行い、近未来の都市モビリティのあるべき姿について多面的に議論します。	ファシリテーター: 林 豊彦 パネリスト: 藤堂 史明、今村 孝、 楢本 学

後期ゼミナール ※令和2年10月～令和2年11月予定(曜日・時間未定)

後期講座では、実際に自転車で街中を移動することにより、自転車が移動手段として、どのように有効かを体験し、その利点と現状での欠点を各自レポートにまとめてもらいます。その報告書に基づいて、具体的な解決策について多面的に議論する予定です。